

解答

□

- 1 重複 2 帰路 3 待機 4 慣習 5 注
6 てんぼう 7 ほりゅう 8 おうらい 9 みっせつ 10 ようい

□

- 1 A イ B ウ C ア
2 ア
3 イ
4 ウ
5 エ
6 イ
7 夢をかなえ、希望を実現してくれる存在／生活や健康をおびやかすもの

□

- 1 イ
2 A ア B エ C ア
3 (1) イ (2) もちろん十～してある。
4 (1) ア (2) イ
5 ア
6 イ

□

- 1 二重にまきて、くびにかける数珠
2 (1) すももも、ももも、もものうち。 (2) 家には二羽にわとりがいます。

解説

□ 出典は、佐藤統／古田ゆかり「おはようからおやすみまでの科学」。

- 1 A…接続語の問題は、前後の内容をしっかりと考え、どのようなつながりならふさわしいのかを考える作業が必要になります。Aの前の内容は、できないことができるようになれば大きな満足が得られるという内容です。Aの後は、できないことができるようになりたいという欲望を科学技術が可能にしてくれたという内容なので、Aには添加の接続語が入ります。B…科学技術に限らず、全てに共通の特徴が一体何なのかを考えてみるとよいでしょう。選択肢の中では、「文化」があてはまります。C…前後の内容を考えてみると、「範囲」についての対比の内容が出ています。「しかし」があてはまります。
- 2 知見とは、「見聞きして得られた知識」、つまり「見識」のことです。
- 3 ～線部の直前の「(科学技術の) メリットに対する感動がインフレを起こして」に注目し、感動が薄れてしまったのはなぜなのかを考えてみましょう。たとえば新しい電化製品が手に入れるとします。最初はその便利さに対して感動し、満足するのですが、しばらくするとそのある生活が、あたりまえのことになってしまうのです。そうすると、人間というものはさらに便利なものを求めてしまうのですね。この内容にふさわしいものを考えてみましょう。
- 4 「これ」は、「人間にとってはおもしろいありがたいこと」であるから「先へ進」むのです。それを頭に入れて、直前を読んでみると、「これ」がさしているのは「(人間の欲望を) 実現することを、科学技術は可能にしてくれた」という内容だとわかります。
- 5 前の段落で「欲望」を「実現することを、科学技術は可能にしてくれた」とまとめています。空欄は、その内容を繰り返していると考えればよいでしょう。
- 6 どこかに「科学技術の発展が累積的だということ」について書かれているところがないか、探してみましょう。空欄

Cがある段落に、「(科学技術が) どんどん累積的に発展してくると、あまりにも規模が大きく、強力になりすぎて、人間の想像力の限界を超えてしまいます」というふうに、問題点が具体的に書かれています。

7 「両刃の剣」とは、「非常に役に立つ側面がある一方で、大きな害を与える危険を持っている側面もあるもの」のたとえとして使われます。このことから、「科学技術」の「良い面」と「悪い面」をそれぞれ簡潔に表したところを、文章中から探せばよいと見当がつかます。最終段落を見ると、「今までは夢をかなえ、希望を実現してくれる存在だった科学技術が、生活や健康をおびやかすものとしてクローズアップされてきます」とあり、ここに、科学技術の二つの面が簡潔に言い表されています。

㊦ 出典は、澤地久枝「うちなーぐち (沖縄言葉)」。

1 空欄の前には「(言葉は) もちろん十二分に通じます」と書かれていますが、後には「すっかりわかるようにはなれないと、あきらめてしまっている部分」もあると書かれているので、空欄には逆接の接続語が入ります。

3 (1) 文章全体を読むと、沖縄の人は他県の人に対しては東京の言葉で会話をすると書かれています。また、他県の人が理解できないような沖縄言葉が出た場合は、分かりやすく解釈してくれるとも書いてあります。親しい友人は、そのような現実を知らずに、沖縄の人はつねに沖縄の言葉で話すものだと思いこみ、「言葉は通じる？」と心配して聞いているのです。

(2) 「通じる？」という問いに対する返答を「まよった理由」を探す問題です。「通じる」のであればまよる必要はありません。また、「通じない」のであっても「通じない」と答えればよいのです。まよっているのは「通じるとも言いきれないし、通じないとも言いきれない」からです。それが書かれているのは、4・5行めですね。

4 (1) 「他県の人間にまるきりわからずに日常会話のやりとりなど、まずない」のは「そういう過去」があるためです。それをふまえた上で、「そういう過去」のさす内容を考えましょう。前の部分を見ると、それは「かつて、沖縄方言はきびしく禁じられ」、「差別された」過去のことだとわかります。

(2) 「かつて、沖縄方言はきびしく禁じられ」、「差別された」過去があるために、沖縄の人は、他県の人間に対して、その人たちが分かる言葉で話すようになったのです。さらに、分からない言葉が出てきたら、分かるように解釈をする心配りも持っているのです。

5 4の(2)で見たように、たとえ、県外の人が分からない言葉が出てきても、その場にいる誰かが解釈をしてくれるのです。

6 沖縄の、としのいった人たちが沖縄言葉を使うのは、「愛着の強さよりも、それがいちばん身にあった言葉」だからであると筆者は考えています。これをふまえて選択肢を考えてみましょう。

㊧ 出典は、阿刀田高「日本語えとせとら」〈時事通信出版局〉。

1 「二重に巻き付けて首にかける」という意味になるように、読み点を打ちましょう。

2 (1) 「スモモも桃も桃のうち」という意味になるようにしましょう。

(2) 読み点をつけずに誤解のない文にするには、漢字を使うしかありません。「家には」の直後の「にわ」を「二羽」と書きかえるだけで、読みやすく誤解のない文になりますね。「にわとり」は「鶏」としてもよいでしょう。